

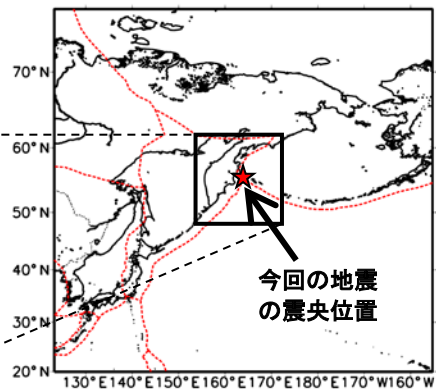
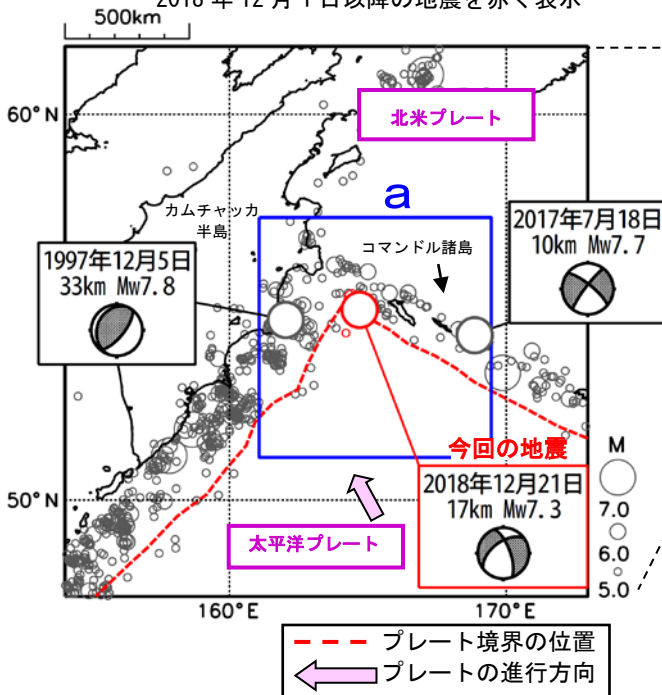
12月21日 ロシア、コマンドル諸島の地震

2018年12月21日02時01分(日本時間、以下同じ)にロシア、コマンドル諸島の深さ17kmでMw7.3の地震が発生した。この付近では太平洋プレートと北米プレートの境界がある。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は北北東-南南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

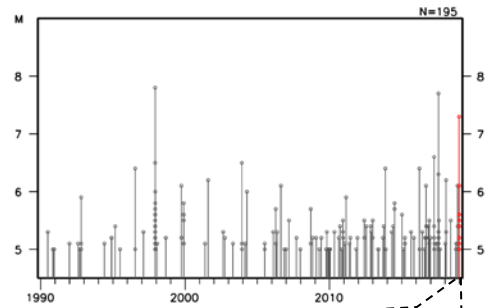
気象庁は、この地震に対して、同日02時26分に北西太平洋津波情報を発表し、同日02時30分に遠地地震に関する情報(震源の近傍で津波発生の可能性あり、日本の沿岸で若干の海面変動の可能性あり)を発表した。今回の地震の発生後、24日にほぼ同じ場所でMw6.1の地震が発生するなど、地震活動が活発になった。

1990年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域a)では、M6.0以上の地震が度々発生している。今回の地震から東方向に約600km離れた場所で、2017年7月18日にMw7.7の地震が発生し、津波を観測した。1910年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域b)では、M7を超える地震が度々発生し、過去には日本で津波を観測する地震がいくつか発生している。

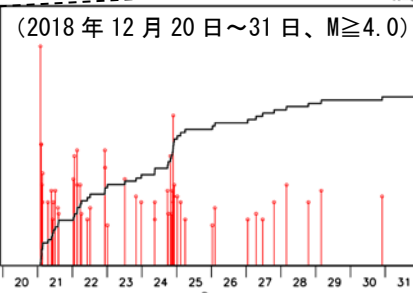
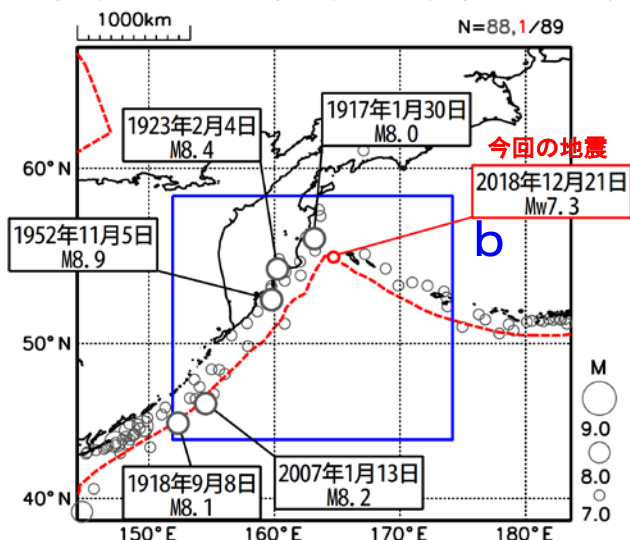
震央分布図
(1990年1月1日~2018年12月31日、深さ0~90km、M \geq 5.0)
2018年12月1日以降の地震を赤く表示



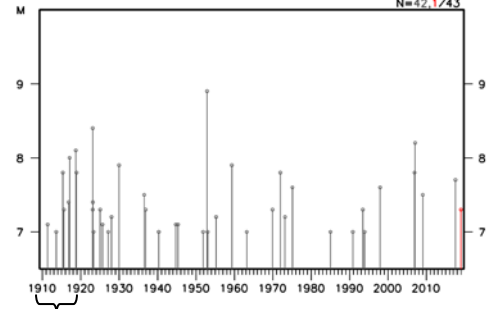
領域a内のM-T図



震央分布図
(1910年1月1日~2018年12月31日、深さ0~90km、M \geq 7.0)



領域b内のM-T図



(この期間は検知能力が低い)

※本資料中、今回の地震、2017年7月18日の地震の発震機構とMwは気象庁、その他の地震の発震機構とMwはGlobal CMTによる。また、震源要素は、1910年から1959年までは国際地震センター(ISCJEM)、1960年以降はUSGSによる(2018年12月31日現在)。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)*より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.